

平成24年度第3回青梅市協働事業市民推進委員会概要

平成24年10月3日

本庁舎5階 502会議室

10:00～12:00

欠：高山委員

1 報告事項

(1) 青梅市市民提案協働事業の進捗状況について(資料1)

・事務局から説明

・質疑応答

委員：実施団体の活動のPRが必要と思うが、行っているのか。またフェイスブックでも構わないのか。

事務局：団体の応募条件としての活動報告は、フェイスブックであっても誰でも見られるような設定であれば良い。

委員長：オブザーバーで永山マスターズの打合せに参加したが、行政側も積極的でいい形になるように感じた。他の打合せの様子は？

事務局：これまで打合せに参加したのは2団体である。今後各団体の事業に顔を出し様子を見たい。

委員：おそきだよりの発行については、6支会の資金でできないものか。

事務局：自治会とは別の活動である。次年度以降そういう流れになれば良いとも思うが、今年度については足がかりとして助成金を活用し活動している。

委員：おそきだよりの活動は個人が始めた活動である。地域性を考えると自治会等を巻き込んで活動することが重要。長い時間をかけて地域での信頼を得て活動している。

委員：たよりの最初に支会長がのっているのがちょっと違和感がある。

委員：青梅の税金を使うからには特定の地域だけでなく、市全体が良くなるものでなければならないのでは。

委員：市全体の意識付けのための旗頭ではないか。行政の絡みが中途半端だと結果も中途半端になるのでは。行政の後押しなしではうまくいかないのでは。団体の活動報告は広報で行うべきでないか。

委員長：採択された協働事業が有効に実施されるような議論を行って行き

たい。各地域に課題があるが、これが一つのケースとして広がって行けば良い。

委員：地域の課題は今後市全体に課題を投げかけることにもなるだろう。

委員：事業がどういう成果を目指すのか事前にはっきりさせておくべき。

委員：事業は全て目標を作成し応募している。また、中間報告を広報で行ってはどうか。

事務局：中間報告を広報で行う。また、事業終了後には報告会を行う。

委員：大切な事業はこじんまりとしたものでなく、大きなお金をかけることも必要ではないか。

委員長：長期計画が広報おうめに出た。そのようなパブリックコメントを出しても良いのではないか。

(2) 協働推進員および市民活動団体対象の協働研修開催結果について
(資料 2)

・事務局から報告

・質疑応答

委員：ワークショップの時間が短いのでは。合宿研修もどうか。

委員長：このワークショップは協働のイメージトレーニングの意味合いが強いのではないか。

委員：今後の事業に活かないのか。

事務局：事業実現の可能性がないことは無いが、市民と職員の交流がねらいでもある。

委員：講義を受けて実際に行動してもらおうようにするべきではないか。

事務局：事業実施となると複数回のグループワークが必要になる。今回は今後の協働事業の組立のためのトレーニングである。

委員：青梅の良いところ・悪いところをどう吸い上げて事業を行うかが大切である。

委員長：今年の研修はこれで終わりか。

事務局：協働には限らないが、あと1回研修を実施予定である。

2 協議事項

(1) 今後の協働の推進について (資料 3、 4)

・事務局から資料の説明

委員長：資料を踏まえて今後の協働の推進についてざっくばらんに意見を出し合いたい。それを紙にまとめていく。

委員：採択されたもの以外で協働事業は何件あるのか。その予算は？

事務局：23年度は約90件である。予算は現在分かりかねる。

委員：予算の合計を知りたい。また、目標は定量的なものであるべき。そうでないと評価が難しい。

事務局：事業の目的はしっかりしてるが目標がはっきりしないところはあるかもしれない。

委員：目標がはっきりしていない事業は事業でない。

委員：みんなが目指すのは幸せな生活になるのではないか。そういったものはどうやって測るのか。

委員：アンケートを取るしかないのでは。

委員：一般の方は参画と言ってもどうすれば良いか分からないのでは。

委員：市民も積極的に情報を集めるべきでは。

委員：参画は参加よりも一步踏み込んだ内容。

委員：参画はあるテーマの実現のための委員会等で議論することが参画で、決まったことについて足を運ぶことが参加ではないか。その前に、まちづくりに関心をもつ人を増やすことが大切である。

委員長：団体は高年齢化している。バトンタッチするための支援が弱い。相談できる施設・機能を充実してほしい。

委員：団体のリーダーを育てることが大切。

委員：市民1人1人の思いがあると思うが、それを反映した政策を。

委員：予算を使った事業であるならその成果をはっきりさせないといけない。

委員：超高齢化時代である。高齢者に関する協働事業が少ない。

委員：予算のいらぬ協働事業は受付けるのか。

事務局：随時受付けている。

委員長：次回引き続き協議する。

3 その他

委員：2階姉妹都市コーナーで合唱団のミニコンサートがある。

- ・次回は12月に実施予定。

- 終了 -